

第二言語会話における話速の影響を考慮した支援の研究

A study for supporting second language conversation using speech rate detection

学籍番号：201721713

氏名：廖 薇

LIAO WEI

近年、世界中にグローバル化が進んでおり、異なる国の間での交流が活発化している。異なる母語の人々の間で、異言語間の意思疎通のため共通言語を使ってコミュニケーションを行う機会がさらに増加すると考えられる。そのため、日本語母語ではない在日外国人にとって、同じ在日外国人と日本語を共通言語とする会話を行う場合、または日本語母語話者(NS)と会話を行う場合がある。しかし、日本語を用いて日本語母語話者とコミュニケーションを取る場合、言語能力の差などにより、非母語話者(NNS)の聞き取りと理解困難による会話のアンバランスがよく見られている。

第二言語コミュニケーションにおけるNNSの聞き取りと理解困難の原因は多数の研究で調査されてきた。話速も1つ影響要素としてあげられたがNSのリアルタイムな話速変化を客観的に調査していなかった。従って、本研究では、実際の第二言語コミュニケーション場面において、NSの発話速度の増加によりNNSの理解困難が生じることを客観的なデータを通じて検証した。話速視点から第二言語コミュニケーションを支援すると考え、NSの早口をリアルタイムに知らせ、NSの自発調整を促す手法が提案されている。実際の第二言語コミュニケーション場面におけるこの手法の有効性を検証するため、本研究はWOZ法を用い、会話環境を作り、実証実験を行う。結果として早口を知らせることによるNSの自発的話速調整が見られた。話速通知手法の有効性と実用性が期待できると考え、音声メディア処理で、自動的NSの話速を検知し、話速が速いと判断した際に通知を出し、NSに気づかせる通知システムが提案されている。本研究はその話速通知システムを使い、実際の第二言語コミュニケーション実験を行った。システムの使用により、NSが自発的に話速調整があるかを調査した。結果として話速通知直前と比べ、通知後のNS話速が遅くなったことがわかった。

研究指導教員：井上 智雄

副研究指導教員：叶 少瑜